日本聖公会 神戸教区報
神のおとずれ
2010年 4月 イースター号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
http://www.nskk.org/kobe/

発行責任者
司祭 芳我秀一

印刷所
文明堂印刷所

エマオへの道

主教 アンデレ 中村 豊

人生には行き詰まりがつきものです。大学を卒業する学生であれば、不景気で希望した就職先を見つけることができず、途方にくれてしまうとか、職場や家庭の人間関係がうまくゆかず、次第に心が暗くなってしまうとか、信頼していた人が移動などで自分の視界から消え去り、心の支えを失ったとか、牧師であれば、信徒との疎通がなかなかうまくゆかず、心が萎えてしまいます。このようなとき、様々な方法で悩みの克服を試みます。

聖ヤコブの道

北西スペインのサンチャゴ・デ・コンポステーラに、聖ヤコブ大聖堂があります。この大聖堂めざし、四季を問わず、多くの人たちが巡礼の旅に出発します。その道のりは約一千キロで、巡礼者は、西へ西へと、ただひたすら歩き続けます。旅のあいだ、人に対する憎しみや、恨み、人から受けた心の傷、自分の不甲斐なさなどを思い起こし、自分のあるべき姿の発見に努めるのです。旅の最後、遙か向こうに、サンチャゴ・デ・コンポステーラ大聖堂の尖塔を見ることができる「歓喜の丘」にたどり着きます。巡礼者は、この丘の側にある宿泊施設で一夜を過ごし、大聖堂に足を踏み入れ、ミサにあずかり、旅を終えます。

旅人の人生は目の見えない人に似ております。前方に障害物があるにも関わらず、それが見えずに躓き、自分の心に傷をつけてしまうのです。もしも、そのとき、案内人がいたらどうなるでしょうか。

エマオの会話

イエスが十字架で死んだ三日目の午後遅く、エルサレムからエマオに向かって、とぼとぼと歩く二人の弟子がおりました。二人は、人生を賭けて従ったイエスが悲惨な死を遂げたことに衝撃を受け、喪失感に苛まれておりました。群衆の「イエスを十字架につけろ」という主張に、我が身可愛さの余り、抗弁することなく沈黙を守り、師を見捨てた罪悪感も抱いております。失意のどん底にあって、二人は故郷に帰ろうとしていたのです。

二人は道すがら、イエスの出来事について色々と論じあっておりました。するとそこに、一人の旅人が近づいてきて話の輪に加わり、「何を話していたのか」と言うのです。弟子たちは、エルサレムでここ数日、起こった出来事を話しました。旅人は、「救い主はこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったではないか」と旧約聖書をひもとき、順次、説明しだします。そうするうちにエマオに到着しました。旅人は進もうとするのですが、もっと話を聞きたくて、二人は強いてその人を引き留め、宿屋に入ります。そして夕食を共にしたとき、その旅人が復活のイエスであったことに気づきました。しかし、その瞬間、イエスは二人の視界から遠ざかってしまったのです。

空しい自分を認める

復活のイエスは、親しい友人のようなすがたで、私たちが苦しんでいるとき、打ちひしがれているとき、歩みを共にしてくださいます。しかし、私たちの側で、自力で困難を打破しようとしている限り、「目が遮られて」イエスを認めることはできません。最後の晩餐のあと、ユダの足さえも洗ったイエスの謙遜に倣い、率直な心で、自分の苦しみをイエスに訴えるとき、復活のイエスが突如として現れるのです。そればかりではありません。その瞬間、私たちの冷え切った心が炎のように熱くなり、どのような困難であっても、それに向かって進む自信と勇気が与えられるのです。

（神戸教区主教）

鳩だより

〈敬称略〉

ご逝去

2月1日(月) エステル 佐野怜子(57歳) 岡山聖オーガスチン教会
2月1日(月) ペテロ 勝部文男(80歳) 松江基督教会
2月5日(金) ヨセフ 湯村吉夫(97歳) 富岡キリスト教会
2月9日(火) ルツ 谷門美代(92歳) 下関聖フランシス・ザビエル教会

次号予定

巻頭 司祭 吉田雅人
司祭按手式、中高生大会準備会報告、ほか。

5月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時　2010年5月6日(木) 午前10:30
場所　神戸聖ミカエル大聖堂
司式　主教 中村 豊
説教　司祭 原田佳城

※ 5月の記念逝去教役者

2日	司祭		覚前 政蔵
5日	宣教師	ヴァイオレット J.	ヘッド
6日	司祭		吉本要太郎
10日	司祭	フランク	ウエストン
14日	伝道師	マリア	松山 初子
16日	司祭	ポウロ	韓 浩
19日	主教	パウロ	八代 欽一
22日	司祭	ペテロ	長澤 四郎
24日	司祭	ヨハネ	村上 豊吉
24日	司祭	パウロ	大塚 磐
26日	司祭		末好 萬吉
28日	司祭	バルナバ	興賀田千秋
29日	司祭	アーネスト G.	ハッチンソン
30日	宣教師	メイブル C.	バーグス

神戸教区青年の集い「キリストの平和」（ごあんない）

日時：5月3～5日(月・水)
場所：倉敷伝道所
問合せ先：林和広司祭
☎086-423-0868
概要：青年による発題を中心に「キリストの平和」を分かち合います。

【主なプログラム】
①レクリエーション
②永野拓也兄の発題
③広瀬愛理姉の発題
④バイブルシェアリング（ヨハネ20：19～）林和広司祭
⑤振り返り

参加申込先：永野拓也
☎090-9618-8541 下記へ
（申込締切：4月25日）
E-mail:takuya0323ngano@yahoo.co.jp

キリスト教入門 Q&A

執事 イサク 坪井 智

Q「イースター」って何ですか？

A イエス・キリストの復活を記念する祝日で、「復活日、また復活祭」と呼んでいます。日本では、クリスマスがキリスト教の祝日として有名ですが、本当はイースター（復活祭）の方がキリスト教の中心的な祝日です。英語の「イースター」という名称は、古いヨーロッパの「春の女神」の祭に由来しますが、キリスト教がヨーロッパに伝えられた後、その春の訪れを告げる祭に、イエス・キリストの復活という新しい意味が与えられました。

☆

Q「イースター」は、毎年、いつあるのですか？

A イエスの復活は、ユダヤ教の過越祭に続く「週のはじめの日（日曜日）」の出来事でした。この過越祭は、太陰暦に従っていて、春分の日（3月21日）の後の満月の夜に行われました。そこで復活祭も、それに続く日曜日と決められました。ですから3月から4月の間で、毎年、日は変りますが、曜日は必ず日曜日です。

☆

Q「イースター」がなぜ、中心的なのですか？

A イエス・キリストの受難の死と復活こそが、キリスト教にとって最も大切な教えだからです。私たちは死を恐れ、しかも死は避けられません。キリスト教では、死は罪の結果であること、そしてイエスの死は私たちの罪を赦すための「身代わりの死」であり、その死によって私たちの罪が赦されたこと、そしてイエスの復活によって、私たちにも永遠の命が約束されていることを教えています。

☆

Q「復活」は本当にあった出来事なのですか？

A「復活」について、科学的に納得できる説明はできません。信じるか否かだけです。しかし、イエスの十字架の死を目の当たりにして逃げ去った弟子たちが、復活したイエスに出会ってからは、まるで人が変わったように、イエスがキリスト（救い主）であると大胆に証し始めたこと、イエスの復活した「週のはじめの日（日曜日）」を、「主の日」として礼拝を守るようになったことなどから、弟子たちに何か強烈な印象を与える出来事があったことが分ります。

☆

Q イースターの習慣にはどんなものがありますか？

A「イースター・エッグ」の習慣があります。古代より卵は生命を生み出すものとして尊ばれ、また、死んでいるように見える卵から新しい生命が誕生するのは、キリストの復活を表すのにふさわしいと考えられました。そこでヨーロッパでは、復活日に卵に絵を描いたり、色で染めたものをプレゼントしたり、またそれを隠して探すゲームなどが行われます。